

こうほう ショッキング

Vol,40

Kōhō shocking



「ヤマネコ戦隊
スーパーみがくンジャー」



みたらい やすし
御手洗 やす史さん

プロフィール

46歳。大分県湯布院町生まれ。峰歯科診療所院長。お父さまも歯科医師で峰町出身。お父さまは自衛隊の歯科医官勤務のち湯布院町に開業。約30年前、峰町が無歯科医地区になることを危惧した当時の峰町議会議長の依頼を受け、自身の医院をたたんで郷里へ戻り、峰町立歯科診療所に長年勤務。高齢を理由に退職される際、後任としてやす史さんに白羽の矢が立ち、平成11年対馬に転居、峰歯科診療所を開業。ご家族は、面倒見の良いお母さまと長崎市出身の奥さま、一男一女。「親子2代、対馬や峰の方々のために歯科医として働けたことに永代の感謝を捧げます」

対馬生まれでないやす史さんが
対馬に帰ることになったのは？

ある年齢になると、親の意見に素直ではなくなるじゃないですか。私も歯科大生の頃から次第に生意気になり、親父の意見に逆らっていました(笑)。でも数日経つと、親父の意見のほうを射ているということが次第に分かってくるんです。正直なところ、幼い頃から私は親父の考えや意見が間違っていると思ったことはありません。たまたま、何となく、親父のことが好きだったんですかね(笑)。福岡で勤務医として脂の乗ってきた私に親父が対馬行きを力説して。なかなか首を縦にふれずいたので、内心では「親父が言うこと、一理あるよなあ」と思っていました(笑)。また、親父が対馬へ帰るきっかけとなった時と同様、当時の峰町長さんや町議会議長さんが勤務先まで来てくださり、院長先生に頭を下げてまでお願いしてくださいました。強いお気持ちを受け、自分への新しい挑戦を求めて、また、家内の「ついて行きます」との支えもあり、ご先祖様の眠る地である対馬へ帰ることにしました。

幼いころから夢をお持ちだった
とうかがいました。

いくつか夢を持っていて、それらはほとんど叶えることができたように思います。これはもう無理だろうと思うのは「ガンを撲滅す

る」という夢。お医者様にならずに、
歯医者になっちゃったから(笑)。

代わりに歯にとつてガンの様に嫌な病気であるむし歯の予防を追求して博士号を得たことで、夢の穴埋めが少しできたのかな。でも、自分がここまで成長できたのは、夢があったから。夢に向かう運を手繰り寄せる決断力は、父が教えてくれました。父と母の背中を見て育ってきたことが、私を成長させた力です。両親の成功した姿を見ていなければ、歯科医になることもなかったし、対馬に帰ることも、世界へ羽ばたくという夢を持つこともありませんでした。父を目指し、超えたいと思ったし、両親を見てきたから自分も同じように豊かな家庭がほしいと思いました。すべてが家族につながっていて、自分の原動力、夢の源泉がそこにあったと思います。父と母、家族には本当に感謝しています。

対馬のこれから願うことは？

対馬の子どもたちには、自分だけの何か特別で、でっかい夢を持つてほしい。そして自分を信じて、夢を追いかけてほしいです。本気で夢を追いかけていると、その夢のほうから自分に近寄ってくるんです。でもそのチャンスってちょっと遠くにあって、思い切ったジャンプしないとゲットできない微妙な位置にある。ちょうどいいと思ったところに来た時にジャンプしても、その時にはもう通り過ぎ

ている。ちよつと無理だろうと思
う時に挑戦する、挑戦してうまく
いかなくても次の挑戦が来た時に
その人は必ず前向きな何かを持つ
ている。「挑戦」こそが私のポリ
シーです。対馬の子どもたちには
「少々無理だと思ふことを、少々
無理だと思ふ時に、思い切つてや
りなさい！」と伝えたい。気持ち
がワクワクするような輝いた夢を
持て！ダメだと言ふな、思ふな。
周りが無理と思つても、自分だけ
は絶対に無理と思ふな。それが、
自分を信じきる力、「自信」と言
うのだと思います。

もう一つ強い願いがあります。
それは、女性が輝く対馬になつて
ほしい、ということ。そうならら
「お、お島 対馬」はもつと
「おお、お っ！な島、対馬」
つて言われるようになると思いま
す。

対馬の伝統と風習、受け継いで
きた精神文化を絶やさないでほし
い。そうすれば、対馬を離れても
胸を張つてふるさとを語れます。
最後にもう一度言わせてくださ
い。ご先祖様への感謝とともに、
亡き父と年老いた母へ、私を産み
育ててくれた恩に感謝します。

毎回、登場して下さった方に
次の方をご紹介いただくこの
コーナー。次回は峰町三根に
お住まいの米田大器さんです。
お楽しみに。